



年の初めの例として

校長 片寄 玲子

♪とーしのはーじめの ためしーとて♪ 1964年から2010年まで、毎年お正月に放映されていた「新春かくし芸大会」のテーマソングだった『一月一日』という文部省唱歌の出だしです。『例(ためし)』とは、習慣・ならわしといった意味で使われます。年の初めの習慣として、門松や鏡もちを飾る、おせちを食べる、おもちを食べる、初詣に出かける、書初めをする、お年玉をもらう・あげる、かるたや羽根つきや凧揚げをして遊ぶ・・・などが挙げられます。今では年越しの過ごし方も多様化し、家ごとにいろいろ素敵な過ごし方がありますが、それでも、お正月は、古くからの日本らしいものごとに出合う機会も多いですね。

さて、連続テレビ小説で話題の小泉八雲＝ラフカディオ・ハーンは、こうした日本の古来からの風習や街並をこよなく愛した人です。小泉八雲は、日本の土を踏んだその瞬間から、あらゆるものからこの世のものとは思えない美しさを感じたと言っています。特に、彼をくぎ付けにしたのは、「文字」でした。年の初めに『神々の国の首都』という彼の名著から、日本の文字ある風景への愛情が感じられる部分を抜粋してみましょう。

- ・屋号や商品名を記した文字は、のれんにゆらめいているものも、金色や漆塗りの看板にかすかに光っているものも、一様に上から下に垂直に並んでいる。着物と同じ濃紺が店ののれんにも多く、職人の着ているものにも店ののれんと同じ不思議な文字が書かれている。職人の法被の背に、紺地に白く、遠くからでも楽に読めるように、大きく文字が染め抜かれていると、どんな衣装もなにか絢爛たるものに見える。
- ・街の絵のような美しさは、大半が、ほかでもない、これらの文字・・・門柱や障子、ふすまの類まで、あらゆるものを白、黒、青、金色に彩っている漢字と日本の文字の氾濫に由来するのだと思い当たる。
- ・日本人の頭脳にとって、表意文字は、生命観にあふれる一幅の絵なのだ。それは生きて物を言い、身振りまでするようだ。日本の街は、いたるところにこうした生きた文字を充満させているのだ。その様々な形が、街を行く人々の目に呼びかけ、人間の顔のように、にっこりと笑いかけたり渋面をつくったりする。

藍で染められた法被やのれんの文字に、熱烈に心を奪われているのがわかります。デザイン化された意匠のような文字もさることながら、小泉八雲が特に惹かれたのは毛筆の文字でした。

- ・一人一人の芸術家が、自分の書く文字は他の誰のよりも美しくあれとの願いをこめて誠心誠意努力を傾けてきた。筆の運びとしてはほんの何筆かで終わってしまうが、その一筆一筆に、優美、均整、線の微妙さに関して計り知れない秘法があるがために文字は実際、生あるもののように見える

今年も書初めに取り組んでいます。土曜授業には書初め展でお目かけます。たしかに、同じ言葉だけれど、墨の濃さも、線の太さも、書き始めの位置も、筆の払い具合もそれぞれ個性いっぱいの文字がいくつもいくつも並ぶ様子は、さながら、軒を連ねた店々ののれんのようなかもしれません。子供たちのそのときどきの心持ち、体調、姿勢などによって筆圧や筆運びの勢いも変わります。気候によって墨の状態も違います。低学年の硬筆習字だって同じです。八雲が感じたように、ある意味、人が創り出し、思いを込めて描く文字は、生き物なのかもしれません。子供たちの想いのこもった様々な姿の文字が、もうすぐお別れとなる校舎のあちこちで生き生きと息づきます。にっこりと笑いかけたり、語り掛けたりしてくる文字たちの芸術をごゆっくりご覧ください。

仮設校舎の工事内装まで進んでいます。子供たちは修了式まで今のままですが、2月末には仮設校舎が完成し、新年度に向けて大人による物品等の引っ越しが始まります。いつもとちがう、特別なことだらけの一年となりますが、本年もどうぞよろしくお願いたします。

1月の目標

- 生活目標：寒さに負けない体をつくろう
- 保健目標：冬を健康に過ごそう
- 給食目標：食後は静かに休もう

東泉小学校ホームページ

<http://www.taitocity.net/tousen-es/>



